



# 特集 愛情込めた枝肉 日本一



和牛の肥育技術を競う「第5回 和牛甲子園」が1月21日に開催され、曾於高校畜産食農科の肉用牛班が育てた「裕太」号が「枝肉評価部門」で3年ぶり2度目の最優秀賞に輝きました。枝肉重量は601<sup>kg</sup>で、脂肪交雑（BMS）は最高記録の12。280万円を超える高値がつけました。

肉用牛班の皆さん

—最優秀賞を受賞した感想は？—

皆で愛情を込めて育てたのでとても嬉しかったです。（3年道場善也さん）



先輩方は涙ぐんでいて、家族はとても喜んでいました。（2年坂元渚さん）

—何が評価されたのですか？—

枝肉重量やロース芯の大きさ、サシの入り方など総合的に良かったです。（3年竹元諒さん）

—何に気を付けて育てましたか？—

ストレスフリーを目指し、暑熱対策や床変えを定期的に行うように気を付けました。（3年松尾小梅さん）

—牛の飼育で大変だったことは？—

体調管理や餌の量を調整すること。牛を引く時に足をふまれたりするので大変です。（2年川畑穂花さん）

—また来年も出場したいですか？—

また来年も出場し、2年連続最優秀賞を取りたいです。（2年本坊志瑛奈さん）

—これからの目標は？—

卒業後は肥育牛飼育に携わるので、美味しいお肉を作って人を笑顔にできればいいと思います。（3年重信奈々さん）